



「お遍路」世界遺産へ連携

世界遺産に登録されているキリスト教徒の巡礼路「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」にあるスペイン・モリナセカ町の町長らが8日、香川県の浜田恵造知事を訪問した。写真。四国4県などは連携して四国霊場八十八カ所巡りとお遍路文化の世界遺産登録を目指しており、浜田知事は「登

キリスト教の巡礼路

スペイン・モリナセカ町長

録の助言をいただきました」と述べた。モリナセカ町のアルフォンソ・アリアス・バルボア町長ら一行はお遍路文化の世界遺産登録を目指す非営利組織(NPO)が招致した。15日まで滞在し、88の寺院がある四国の自治体などと交流する。香川県庁でバルボア町長は「訪

香川知事訪問「交流広げたい」

問をきっかけに文化や観光など幅広い交流を広げたい」と語った。NPOはお遍路文化の普及に貢献した人に贈る「おもてなし大使任命書」を渡した。これまで504人に贈っているが、外国人としては初めてという。訪問を記念し、浜田知事が香川県三豊市特産の張り子の虎の置物を、バルボア町長は巡礼者が身につける貝殻のペンダントをそれぞれ贈呈した。